西脇文庫

三

無窮會

遠13
1947
9

13
門人
第卷

無飽三賊圖會卷第三目録

地部

首尾山之圖
同四大州之説
玉石雑石類
手形石
思案石
酒吸石
枕石
鏡石
獨寢石
書出石
參伍手
飛脚石
偽石
酒宴石
著替石
送石

草花の類

三絃草
口酸漿
紅藍花
水引草
玉琴草

水揚草
酒中花
愛相草
鐵漿筆草
線香花

花芒
爪折草
菊燈臺
吸付草
黄金菊

茸の類

皺茸
甫邊茸

思和志茸
誣茸

譽通茸
首茸

須彌山之圖 一名蘇迷盧山 俗ニ首尾山ト云

萬客月日ニ想ヒヲ盆テ
首尾山ニ晝夜ヲ分タズ通フ
時ハ春ノ日モ短ク
秋ノ夜モ
明ル支
早シト云

北ハ黄ハニ南ハ青ク
東白西紅ニ
蘇迷盧山

東白銀峯
南紫ニ州
西銅州
北黄金峯
朝日狀
日柄狀
石說狀
見舞狀
千五日狀
禮狀
無心狀
屆狀

金剛經注云須彌山主在四天下之中爲山之極大者故
大山と名づく辛苦の日月北五曆を遶つくるを遶るとも
此四面ハ州あり是を首尾の四大州と号地方を北華也
となへ俗ハ新地と号此州日々に新ハ華をかざり島黄
金の色をあらそふ故ハ北面を黄色とし南方ハ江南と
号け日毎ハ木この若葉の榮るごとく緑の色をあら
まし色ハ藍をうくむゆへハ南面を青色とし東方ハ
青樓さとく形くハ白幕の色をうけるゆへ東面を白色
し西方ハ花街州と云〻晝夜朝暮を分らず紅の花の

まぐさを顯はし外ハ竝ぶる所あり故ハ西面を紅色とし
蘇迷盧山といへる這山を望む者心を色ハ染るゆへハ
斯号く須彌ハ首尾ハくよき首尾を得て逢んと願ふ
意あり是つぎ〻土地山嶽の類を著ハ取あれども支
さつぎさ故後篇ハあむとして
雜石草花の類をしるす
○手形石いムスコベヤ「デダイガ
タ」ホハ多く山る這石怪
石ハ一名手形石

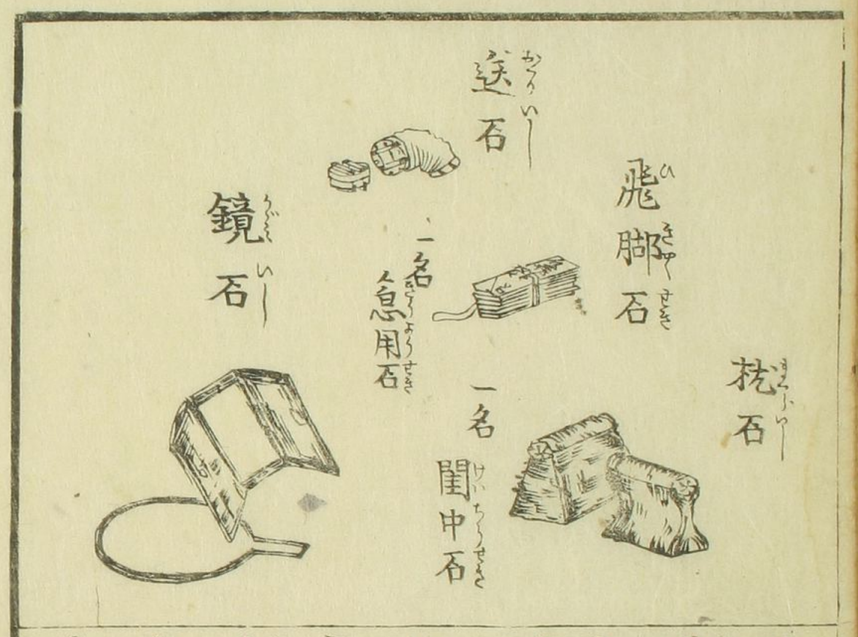
燃石

獨寝石
一名於茶挽石
ヒトリ子石
慈石
偽積
一名ぎしゃく
又持積
云も有
思案石
一名ワヤこそ石
書出石

忽ち焔となる故あり厶ス
コベヤホてハ香花茶諸ホの
惟石を手形とあ〳〵こ云水
火の氣を受るとい〳〵河行
の流の水ホ濡る〳〵時をう
〳〵懸行燈の火氣を受る
時造石焔〳〵と燃ると甚し
是を手形の燒る云へる則
住所を失ふの表るり〳〵

酒宴石
又酒席
酒吸石
珊瑚珠
一名叁伍手
包石
一名著替石

〳〵むべ〳〵
○獨寝石一名於茶挽石と
号く至つく淋しき花山ホ
陰氣をうきゆ不景木の
下ホ生ぜらこ云娼家の老
婆あんご大ホ是を忌嫌
ふいしまろく罵とこ云へつ
○慈石ハ二種あり持積
傾城ガ原ホおのづゝ生ぜ



石ハ〳〵毒氣ハ〳〵偽積ハ傾国虚言の谷の深さふ生ぜと云又空涙の雨〳〵降〳〵生ぜども〳〵慈石ハよく鐵をもとゝ云へども此ふ圖もる偽積ハ人の金銀をよく吸よする毒石なり

○思案石一名ツヽラレセキ云

六十日の節季ゟ至つ〳〵青樓の立越の峯又ハ大通山より生ぜと云惣〳〵此石の理疎〳〵て性まろん故斯号く書山〳〵石あゞハ思慮〳〵より大あるもの出ると云

○酒妻石ハ遊里の樓上ふ晝夜を分ゞ生ぜ此石のかゝるふ近付ゝの石の酒氣ふあつ〳〵酔る妻甚〳〵

○酒吸石ハ腹中ふあると云傳ふれども此ふ圖もるハ酒えん石とゝ〳〵く生ずて其〳〵さち筒茶椀のゞ〳〵又盞石

古都布石ホあれゞもふふ洩も

○珊瑚珠ハ其〳〵さち人の手の如〳〵と云故ふ三伍手ちるゝ

滴蓑石と云こゝく生ぜ其石のよもく悪きを下手三伍手と云薩摩あり山くるを一峯石と云

○包石ハ數品あり〳〵各色異ふしく義あり閨中ふける屏風岩の邊ふ生ぜ一名著替石と云角の立るハ哥妓国より出く三絃石とあづく時節雄山の肩ふも生ぜと云

○拕石ハ多く其色黒く光澤あり此石ハ人の腎精を吸石ある故ふ是を拕とあり支甚しき時ハ精氣虚して身を亡ぶるふ至ると云又古語ふ奥肉を食し滴をのゝ石を並〳〵是を拕とし悪又其中ふ有とう云へる支ひり

石の拕ふ宿うるあとゝ〳〵る吉あり何もふ宜しこのゝざる悪石なれぞ拕の石をいざきゝ〳〵恋の淵ふ入ハ大ゝ危き支也

○飛脚石一名息用石と云花街ふ數多く生ぜ送石といへも同地より山〳〵能あり〳〵便用よき石也

○鏡石ハ石面光赫〳〵人の面をうつ支天下一の名石なり丸く大ある一尺餘あり角ある八寸餘ふして野辺ふ生ぜる故のべ鏡石とゝ

○三絃草ハ何竹の流ふそひし陽氣の地ふそゞちて四時ゝゝふ枝葉ゝぎり美しき花あり往昔ハ花のあゞめ

三絃草

水揚草　一名　轉艸

一名　突出草

花薄

のゝふ〳〵実をうる夏
稀ありしが近世い容子の
風ふ此花轉落〳〵情の
露を結び實をうる夏
女郎花ふかまる夏おし故
一名を轉草と号く春の
比ハ尻定まらぬ蝶々來て
此花ふ戯れ遊ぶゆへ近比
流行せし言ふ蝶〳〵三絃

口酸漿

酒中花　一名

慰草

一名　差込草

瓜折草

又　楊枝艸

草とゝ〳〵ひしい此草の
夏あり
○水揚草一名をつさゝ
草と云本是恍惚子菊の
年を色〳〵変ぜしとの
あり花いとつく義〳〵
枝たをゆうふしゝくいうゐる
風ふもなびくと云花薄も
同種類ふしゝく情の色を

紅藍花

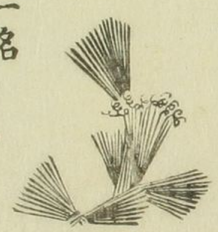
愛相草

一名 アルヘイト草

菊燈花

穂ふあ〻まし人をあ絲くこ
哥おぞふも詠さう
○口酸漿一名慰草夏の
比多く遊里ふ生ぜ花開
く時ふ〻〻まし〻く音ひう
花びらハ人の辰閃ふ似さう
草ふ二種ありて上品を根
引と云下品をカ一キといふ
○酒中花ハ色さゑぐ〻れ

水引草



鍬漿華草

一名 飾草

吸付草

一名 烟艸

ぢも多く紅藍あり酒を
ねぐ〻ハ忽花開ぐめふ酒
中花と号く枝ハ白銀の如
くある草多く都て花と
枝とハ別あり是接木の類
なるべ〻
○爪折草ハ食後酒園ふ
ふ生出る草ゆて枝葉白
葉先の細さを上品と〻

王琴草

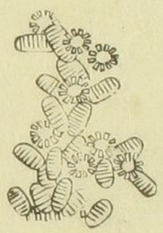
線香花

一名 ヨロリン草

一名 花山草

黄金菊

一名 大盞艸



太さを下品とす美人草の花の辰月かさちり〳〵紅の色をあらそ有是を得て悦ぶ者多し故云

○紅の花ハ化粧の園ふ咲て花の〳〵さち盞のごと〳〵葉ハ六角八角弐ハ丸く角なるもあり〳〵色白銀のごとし云

○愛相草ハ一名阿留平糖

草とらよ花丸く紅白のまぢ〳〵ふり〳〵味ひ至つ〳〵甘し哥妓娼婦ふ此花をとり〳〵小縷帛の類を通〳〵并あど結付る支あり

○菊燈花一名燭臺草と号〳〵黄皆より花咲そめ〳〵四面をてらす諸客此花の下ふ来り〳〵酒宴を催〳〵戯る〳〵あり夜〳〵もふ下ふをするもあり此花四季ともふあり〳〵ちゝめの花散果ざるうちふ新なる花次第ふ咲り時〳〵ハ巻のしんを切支あり年〳〵歳〳〵花相似歳〳〵年〳〵人不回といへるハ此菊燈の花ハ年〳〵相かゝ〳〵ざれども客ハ夜毎ふ

かるゝ〳〵同じ〻ゝぶれば是を言〳〵ものあるべし

○水引草一名飾草云種類多く〳〵て色悉く異なり

數日を過るゝ油あどしむ時ハ忽色を変ずるといへり

○鐵漿草草ハ莖葉のごとくふ〳〵葉黑〳〵朝夕ゝ

分らぬ摘とれ〳〵鐵漿ふゝさゝる故斯名づく

○吸附草一名烟艸又憂忘草云花開く時烟を發し

其香至つゝよ〳〵花終る時灰とあり〳〵散といへり遊里

ふ咲る花ハ半ふして散也半ハ灰とあるべし是花ハ半

開酒ハ半醉の言ふゝれるあるべし

○玉琴草ハ細き莖十三もゝ〳〵おの〳〵花あり風の

手のあさるふ隨ひゝろ〳〵んと鳴也ころ〳〵ん草こゝ名づく

此草ハ至つゝ騒〳〵き地ふハそぐちぐさ〳〵靜なる園ふ植

風のまゝ〳〵ゝと聞也〳〵

○線香花ハ四面の島〳〵ある花山ふ生山る故花山草と

も号〳〵晝夜をとゝ〳〵四季ゝるふ花ありゝく黄昏ふ

一入花盛んなり花びらふ香をゝく〳〵咲あるハ燃るが如

〳〵此花ふ狼藉なきゆう是をまりる者あり号けゝく

線香番ゝゝ云

○黄金菊ハ大盡国のよき種を蒔くる地ハ數多生を
故ハ一名を大盡草と号く此花咲くぶれ〳〵四面ハちる
〳〵時娼家青楼潤ふ夏夥〳〵唐土の慈童ハ菊
潭ハ捨てし菊花のきくりを飲く壽をくらとち〳〵
ぶ〳〵黄金菊の花河竹ハ散その流もとくすつく遊
里の男女數日の魂を延さと云されども黄金菊ハ拮る
夏早〳〵第一る夏遅き草あれバ風の手のいつきハ的
ぞ大切ハよ〳〵そぐて長く楽むべ〳〵是則ち粋なる
べ〳〵と云ふ三戒圖會の趣向なり

○鞍茸ハ大なるハ小ハ小ハ山の肩ハ生し大なるハ
山の腹ハ出るかさ白ぢく
黒〳〵て光澤あり都く木
くの葉の散つとく生
出るゆへハ一名をちりう
ちゝ云林中ハ多く生ず
○四茸一名柏子茸と云く
鞍茸の類ひろく多く林の

ポペン茸

誣茸

一名半分茸

首茸

薫茸

中ホ生じ節あり〳〵その
かさち拳の如し一かぶふ
二本づゝ生じくさ二枚づ有
故ホ四茸と号く
○思之茸ハ恋の山思の山
ホホ言の葉草の志ぎく
積し地ホ生ぜ真ふあじ
ホ味あるも有うちホく
〳〵味あるさとの多く有

是ハ至つく油つゝ誤つく食まぐうぐ
○ポペン茸ハ其ハ色白く又青さ有り春の比多く生ぜ光
澤あり〳〵甚美し〳〵其ハうさぢくさる弱き故風の手ホ〳〵
的ちハ忽ち碎るを去へ鳴〳〵の蚕の子ホ是をとり〳〵敲
びとるをそ〳〵
○誣茸ハ鉢水の邊ホ酒氣の深きうち地ホ生ぜ其色しろ
き有瑠璃色あり都くさち大あり俗〻ギヤ〻レコツプあど
らへ是を製し用ひ〳〵酒を誣るが故ホ誣茸と名
づく又人大醉して半分茸と云ふ故有此余支茸是茸

阿出茸徃茸去茸呉茸貰茸登宇椎茸斯椎茸
あど〻數多あれども支しげれバ此ニ洩らしぬ
○首茸ハ其種類多して各名あり勝山島田より山ぐる
支多し又政圀梳上早笄甲螺奴ホさるく有惣て色
黒光澤ありく薫よき支他の及ぶ所ニあらず恋草の
露しげき地ニ生ずる故是をとるとの下駄をくよし
あづけて下駄もつて首茸云斯あやしき茸生ずる地ニ
戲も遊び其身の濡織るとまつざれバ大支ニ及へし慎玉へと云爾
無飽三賊圖會三之巻大尾

跋

魚ハ水中ニ游ぎて躬をしらず人ハ氣
中ニ有りて氣をしらず又粹ハ粹中ニ
おのれハ粹をしらざる實事ありて覺ある
夜着樓ニ登りて魂膽妓ニつひやし
賢癡人の散銭を施するニ常ニ志の
やゝ朦朧として中ニ見さらにあれども
是を角あるといふ付て魂膽と覧

瀧ふる所みな〻山。峯の傾きこれをとり
巡る。有頃天。雨の重なりをとり
麓つゝ雲。地。闇なる。時ふ天ハ上動
陽なる。地。靜なる。陰也。その中に
なるじの世界。山東。意の山同く
世ごとに愚ひの惰慢なる。そのあら
ゆるを芸〻編半ばに考へ。
とゝ〻ぐる。毎絶三絃弄ぶ。

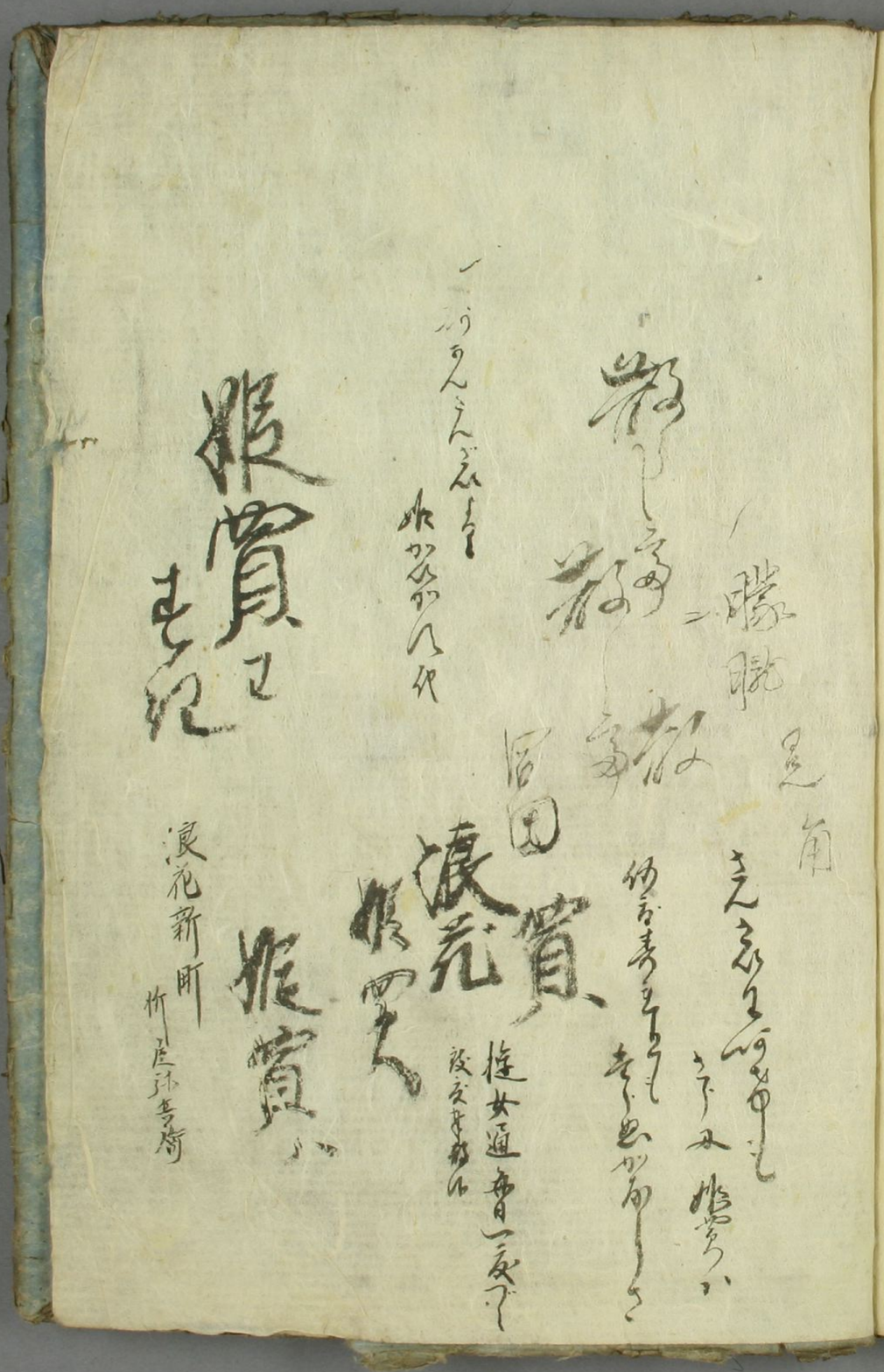
文緯雪のせゝふる所〻ごとに常樹の
宮〻きふ山絶せうん。春の消ふ
なるしゝ。出ぐ泉あるゝふる水
文政よつのとゝの第月中旬

曉　鐘成誌

編集

堤 達成

摂港 絵画

翻蝶葉藏

戸三千四